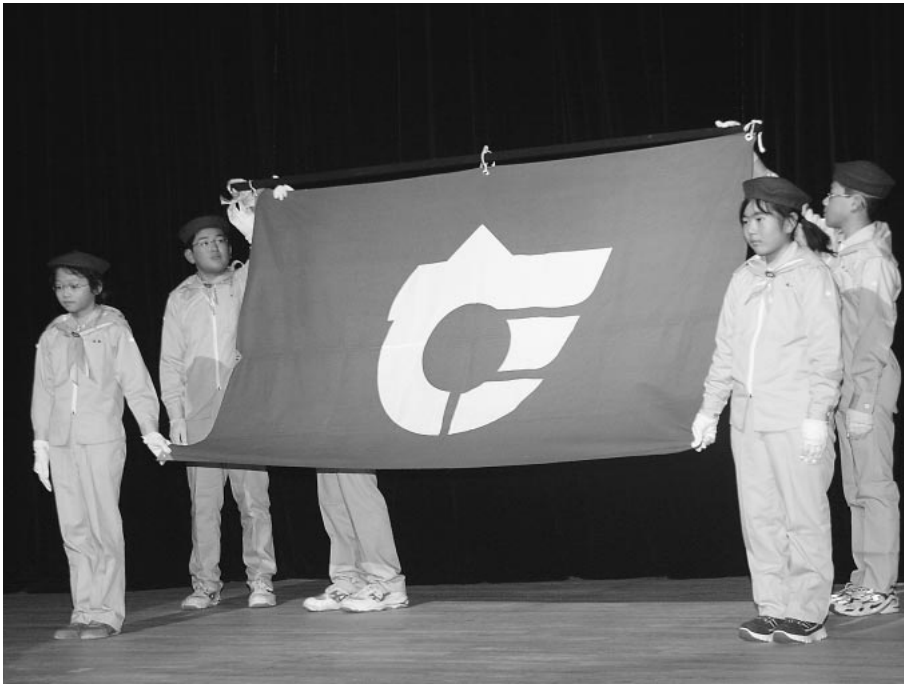


鷹巣町制50年の 歴史に幕

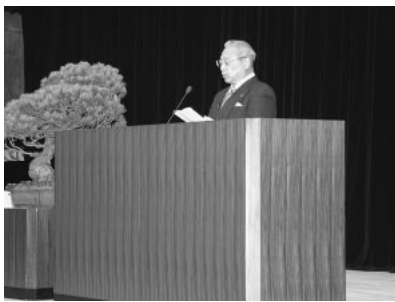


竜森小緑の少年団により町旗を降納

昭和の大同合併で誕生した鷹巣町の閉町式典が3月14日、町議会議員や各団体の長などおよそ400人の参加のもと、たかのす風土館で行われました。

融和と協調を 大切に

はじめに岸部陸鷹巣町長が、今日まで鷹巣町政を築き上げてこられた先人や、多大なご支援を頂いた関係機関に感謝。「県北一円の大プロジェクトとなった大館能代空港の開港など、輝かしい発展とともに歩んできた鷹巣町も、時代の変貌とともに改革の必要に迫られた。昨年2月に鷹巣阿仁地域4町による合併の道を選択するに至った。



私自身1期2年、町民の皆様のご指導とご支援のお陰により、その重責を担ってきた。最後の鷹巣町長として町政に携わるこ

とができたことを光栄に思うと同時に、鷹巣町の歴史に幕を引く役目となり、大変複雑な心境しかし、合併はすること自体が目的ではなく、これからスタート。そういう意味でも、北秋田市の誕生には大いに期待を寄せているところであり、町民の皆様には鷹巣町に生まれ育ったことを誇りとし、融和と協調を大切に、北秋田市発展のため更なるご尽力をいただければ」と、昭和の合併からの歴史を振り返りながら式辞の言葉を述べました。

引き続き、清水修智鷹巣町議会議長は自らの議員生活に触れ、「37年間の議員生活、そして最後の議長として鷹巣町の幕引きの役割をさせて頂き感無量。一生涯忘れることはない。」、最後は「鷹巣町ありがとう」と力強く感謝の言葉を述べました。その後、第2代町長の出川禮一氏をはじめ、歴代町長・議会議長8名を自治功労者として表彰しました。

また、津谷永光秋田県議会議員が「鷹巣町の名はなくなるが、一人ひとりの胸の中にはいつまでも残っている。鷹巣町、ありがとうございました」、石井護北秋田地域振興局長が「県としても新市まちづくりに計画が着

実に実行されるよう、皆さんとともに頑張っていく。北秋田市の名が太鼓のように全国に鳴り響くことを期待する」とあいさつ。

引き続き鷹巣ばやしによる太鼓演奏で太鼓の里たかのすを披露。そして鷹巣町民歌曲作者、後藤惣一郎さんの指揮のもと鷹巣町民歌を参加者全員で合唱しました。



緑の少年団が 町旗を降納

最後に、緑の少年団の手により静かに町旗が降納され、同団が町旗を手にし、会場内を一周様々な歴史とともに大きくなびいていた鷹巣町旗が、小さく折り畳まれ岸部町長の手に渡され50年の歴史に幕を降ろしました。

合川町制50年の 歴史に幕



合川中の生徒により町50年の歴史が紹介された

昭和30年上大野村、下大野村、落合村、下小阿仁村の4村が合併して誕生した合川町の閉町式が3月18日、約2000人の参加のもと、農村環境改善センターで挙行されました。

合川町の名前の由来は、旧4村の中を流れる阿仁川、小阿仁川が合流していることから、『合川』と命名されたとしています。

合川町、心の歩みを永遠に

式典では佐藤修助町長が「合川町の歴史を閉じる式典を挙行しながらも、町民一人ひとりのさみしさが伝わる思いがあり、50年の歴史の重さに身の震える思いがあります。されど、いよいよ合川町は、新市「北秋田市」としての歩みを始めることになりました。町議会議員の皆様方をはじめ、広く町民の意向を反映させながら、間違いのない選択であるとの確信とともに、合川町の風土を、新市の未来図の基底にすえて諸協議に取り組んできました。合川町の50年の歩みは、決して歴史の中に埋もれるものではありません。町民の皆様方とともに合川町の心の歩みの永遠を誓い合いたいと思います。そして、この合川町を心から愛し、誇りに思います。合

川町50年ありがとうございました」と式辞。

引き続き、北秋田地域振興局の石井議局長は「県でも北秋田市の将来像実現を支援したい」と力強い言葉。町議会の佐藤吉次郎議長は「輝かしい歴史、文化は変わることはない。新市となっても大変な困難も予想されるが朝のこない夜はない。きつと明るい時代を迎えられるものと信じている」と期待の言葉。

名譽町民の畠山義郎元町長は「合川町誕生から見つめてきたが、やはり合川がなくなることはさみしい。しかし、新市・北秋田市誕生に期待し、何事も最大限に活用してすばらしい地域になることを祈ります」とあいさつ。

そして、合川中学校生徒10人による「合川町101のできごと」を輪読。「昭和30年3月31日4村が合併し、初代町長に畠山義郎氏当選」を皮切りに、「昭和46年合川中学校で給食開始」、「昭和47年阿仁川河畔にはじめてマトビの灯がともる」、「平成9年当町特産品のお酒の名前『白津』に決定」など、町史を振り返りました。

その後、コーラスグループ・コールつくしんぼの皆さんが、ふるさと賛歌を斉唱。美しい歌声が会場内を包みました。



最後は、会場の全員で合川町民歌を歌い、同時に合川町旗が合川高校生徒の手で降納され、町長に手渡し50年の歴史に幕を閉じました。昔の想いを振り返り、涙ぐむ町民の方々の姿もありました。



同日、最後の町制施行記念式典も開かれ、自治功労者10人をはじめ、142人・1集落・3家族が表彰されました。

森吉町制48年の歴史に幕



成田為三作曲の「秋田県民歌」などを斉唱

昭和31年、旧米内沢町と旧前田村の合併により誕生した森吉町の閉町式典が3月10日、コミユニティセンターで、およそ300人の町民の参加のもと行われました。

はじめに、同町出身の大相撲力士・豪風関（本名・成田旭、尾車部屋）からのビデオレター「新しい風」が流れ、「合併して北秋田市となってもますます発展することをお祈りします」と郷土にメッセージ。

また、町の歩みを写真で綴ったスライドも上映。

炭鉱の街として活況を呈したころの湯の岱集落、昭和47年の集中豪雨で阿仁川が氾濫し中央部が沈下した米内沢橋、平成4年に廃校となった森吉小学校、町名の由来にもなった森吉山での日本ジャンボリーなどが映し出されると、懐かしげにスクリーンに見入っていました。

大いなる朝明けのため閉町の

式辞で近藤健一郎町長は「商店街問題や地方交付税が激減する中、それら乗り越えるには市町村の再編しかない」と合併に至る経緯に触れ、「合併後は観光拠点の形成を目指している。19年の秋田わか杉国体、23年完

成の森吉山ダムなどにより発展は確かなもの。また、鷹巣阿仁部の精神的支柱は、目の前にそびえる森吉山。この地域を越え広く小中高の校歌に歌われていてこの地方の有形シンボル。



森吉の名前はなくなっても新市に埋没することはない。今後の大いなる朝明けのために、名残惜しいが48年6カ月の歴史に幕を閉じることを宣言します」と万感を込め、力強く述べました。

また、庄司憲三郎町議会議長は「森吉の歴史に幕を閉じることは、やはり寂しさを隠しきれない。思い出や歴史があり、非常に名残惜しい。これからは、町民等しく力を合わせて頑張つてほしい。我々町議は、新市誕生後1年間に在任特例で市議として残る。互いに、切磋琢磨し北

秋田市の土台づくりにまい進する」、石井護北秋田地域振興局長は「町の伝統と誇りがとこしえに受け継がれ、美しいメロディーが奏でられることを願う」と述べました。

この後、地元のコーラスグループらが「ふるさと」や、日本の音楽史に数々の名曲を残した町出身の音楽家、成田為三作曲の「秋田県民歌」を披露した後、出席者全員で町民歌を斉唱しました。



ボーイスカウトが町旗を降納

最後は、ボーイスカウトたちが静かに町旗を降納。小さく折り畳まれた町旗が近藤町長に手渡され、町制誕生から48年6カ月の歴史に幕が降ろされました。

阿仁町制50年の 歴史に幕



阿仁中吹奏楽部の演奏する中、町旗を降納

阿仁鉦山などで繁栄した阿仁町の閉町式典が3月9日、ふるさと文化センターで300人余りの町民が参加し行われました。はじめに参加者全員で町民歌を斉唱。引き続き、昭和中期の阿仁町の映像「秘境の夜明け」が、当時の阿仁合線を力強く走る蒸気機関車が走る場面から上映され、鉦山の選鉦、安の滝、比立内の駒踊り、根子番楽、給食用のパン作りなど次々と映し出される思い出の映像に、会場からは当時を懐かしむ声が上がりました。



豊かな自然を

大切に

このあと濱田章町長が「わが町には、鉦山、マタギの文化が華を開き、明治の鹿鳴館時代に先駆け、ルネサンス風荘レンガ造りの異人館が、往時の文明の

高さを忍ばせている。また、源平落人の流れをくむといわれる根子番楽は能楽の先駆ともいわれている。マタギの情熱と格調の高い勇壮な舞いは、歌詞も文学的に優れており、国指定の重要無形民俗文化財に指定された」と歴史を振り返り「新市における阿仁は、歴史と文化を大切に、それに立脚したまちづくりを進めなければならないと考えている。森吉山麓をはじめとする他の地域にはない豊かな自然を大切に、それを産業に結びつけることで、特色あるまちづくりが形成される。また、高齢者がお互いに労り合い、支え合い、声をかけ合う面倒見のよいまちをつくるのが目標です」と式辞を述べました。

豊富な資源を

いかす

山田博康町議会議長は「昭和25年生まれの私にとって、阿仁町の50年の歴史は、自分の歩みのように感じられる。物心がついた頃、でこぼこだった道路が舗装されるなど住みよい環境作りのため社会整備を進めてこられた先人の功績、労苦に感謝します。北秋田市として新しい歴史が始まるが、阿仁に生まれ育った人は、やはりここがふるさと。

と。この地に生まれたことを誇りに、豊富な資源をいかし、栄えある阿仁であってほしい」と期待を込めあいさつしました。

来賓の石井護北秋田地域振興局長は「すばらしい伝統が新市に受け継がれることを祈念します」、元町長の今井乙磨氏は「阿仁の歴史を閉じても山野は変わることはありません。先人たちがここにいた人たち、そして子や孫がこの地を踏みしめながら引継がれていくものと期待しています」とあいさつ。

引き続き参加者全員で「ふるさと」を合唱。中には感極まり涙を流す人の姿も見られました。



最後は、阿仁中吹奏楽部の演奏する中、ステージに掲げられた町旗を降納し、阿仁町50年の歴史に幕を閉じました。